



この新聞は HP (<http://www.npo-asia.org>) でも読めます。上の QR コードを読み取ってください
〒154-0016 東京都世田谷区弦巻 2-18-22-414 E-mail: new-wind2006@npo-asia.org

第 22 回総会・講演会を開催

<総会>

9月15日(日)午前9時30分から新宿区市谷のJICA地球ひろばセミナールームにて、35名の会場参加者に75名の書面参加を得て定足数を満たし、有効に開催されました。加納啓良理事長の開会挨拶に続き、参加者の互選で正会員の園田成和氏が議長に選出され、議事に入りました。西澤理事から2023年度の事業報告及び決算報告が示され、深尾和一監事から監査報告〈司会の施奕敏さん〉があり、いずれも承認されました。続いて西澤理事から、2024年度の事業計画及び事業予算が示され、いずれも承認されました。奥山理事から新春交流会において交流4大学のIメイト学生によるアフレココンテスト等を実施するにあたり、2024年7月に一般社団法人芳心会に対し助成金を申請したことが示され、追認されました。



西澤理事より、7月7日付け理事会で任期満了に伴う役員・顧問が改選され、三木京子氏、小関高志氏、川口祐子氏が理事に選任、竹宮聡氏が監事に選任され、上高子氏、福田陽子氏、伊藤莞爾氏、大橋典子氏の各理事が退任、三木京子氏が監事を退任、名誉顧問に上高子氏が就任、中村一郎氏が顧問を退任、そのほかの役員・顧問は再任された旨の報告がありました。〈議長団、左から小関理事、西澤事務局長、園田議長〉



続いてIメイトオブザイヤーの表彰式があり、2023年度は正会員林孝男さんが選ばれました。加納理事長より、表彰状が授与され、林さんから受賞のご挨拶があり、会場からは盛大な拍手が送られました。午前10時50分に総会及び表彰式が閉会となりました。

(事務局長 西澤 逸実)

< Iメイトオブザイヤーを受賞して >

今回の受賞をすることになり大変光栄に存じております。多くのアジアの優秀な学生達と接することができ、楽しく前向きに交流をさせていただいております。日本会員は比較的高齢者が多い中で、若い学生が積極的に交流を続けてくれていることでこちらも大きな刺激を受けています。

私は30年ほど外資系コンピュータ企業で勤め上げ、50歳を過ぎてから業務パッケージソフトを製作、販売する会社を立ち上げていました。その頃、高校後輩の上高子さんからNPO法人アジアの新しい風のことを伺いました。私は多忙を極めていましたので、社長を辞めたら入会させていただくことを約束しました。その後、入会してベトナムとタイ、中国の学生さんと多く交流させていただきました。特に〈加納理事長から授与される林さん〉ハノイ貿易大学とタマサート大学の方とは長く続いている方もいます。交流の仕方については、日本語の学習や日本の事について貪欲に知りたいと考えている学生が多く、従来のEメールのやり取りだけでは物足りなそうでしたので、LINEやGoogle、Messenger等を利用して、日本語の四字熟語、ことわざや日本地理等を題材にして対話しながら実施しました。

近年は、Iメイトからの卒業式の出席依頼や元Iメイトからの結婚式の招待を受けたりしますが現地に行くのは難しいのでお祝いの品を送ることが多いです。

我々の地道な草の根活動が、やがては大きな輪となり、多くの外国人に日本ファンを増やしていくことが出来れば幸いです。

(正会員 林 孝男)



<講演会>

総会後、岡村郁子さんを講師にお迎えして、講演会が行われました。

日本語教師の資格を取得し、NYで10年ほど駐在の間に日本語を教授され、帰国後は、都立大学で教鞭をとられています。今回は、都立大学の留学生へのインタビュー、愛知県の日本企業への聞き取りを元に、お話し下さいました。本年6月に入会されました。

「日本で学ぶこと、働くことの困難と楽しさ」
—講演要旨—

都立大学の留学生へのインタビューで留学生が挙げた困難は、「対人関係」・「言語」・「大学の活動」・「食生活」・「文化・社会」・「差別・偏見」・「保健・医療」・「経済・就職」・「手続き・情報」・「大学の授業・研究」にカテゴリー化されます。表面的な付き合いで友人ができにくい、日本語で話したいのに英語を使われてしまう、本音と建て前の違いがわからない、手続きの書類も日本語のみで対応が難しい、大学の授業の大半が日本語で詳細の理解が難しいことなどが述べられました。反面、日本人の優しさや、教員との距離の近さ、地域からの支援や暮らしやすさなど、肯定的な面も多数挙げられました。

また今回の調査対象となった愛知県の日本企業8社からは肯定的なコメントが多く、外国人社員はプロ意識が強く、プライド、覚悟をもって取り組んでいる、主体性や向上心が強く、日本人社員に良い影響を与えているということです。一方で、ルールや時間の厳守も大切とのコメントもありました。外国人社員からは、細かいマナーが多すぎる、年功序列のストレスを感じるなどの意見がありました。

双方の葛藤を解決するには、自文化を押し付けるのではなく、違いを認識・受容し、コミュニケーションを円滑にすることが大切です。異なる文化的背景を持つ人々が互いの価値観を尊重し合って共に生きていくコミュニティ心理学の考え方が、まさにアジア風の理念の根拠となり得るのではないかと述べて、講演を締めくくられました。

(理事 島村 美智)



< 役員人事 >

<理事退任>	福田陽子さん	伊藤莞爾さん	大橋典子さん
<新任理事>	小関高志さん	三木京子さん	川口祐子さん
<監事退任>	三木京子さん	<新任監事>	竹宮聡さん
<副理事長退任>	上高子さん	<名誉顧問就任>	上高子さん
<新任副理事長>	奥山寿子さん	<顧問退任>	中村一郎さん

実り多いIメイト交流交歓会

7月14日、Iメイト会員によるオンライン交歓会を実施。参加者28名。

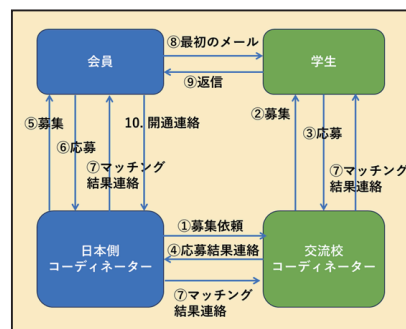
第1部はIメイト交流の流れを図(添付図)で説明し、各大学担当の5名のコーディネーターから、大学の特徴や傾向などの説明がありました。

第2部は貿易大学担当の小林玲子さんが、コーディネーターの立場から様々な交流例の紹介、学生の結婚式などに出席された例や、リアルな交流、交流が途絶えた場合の対応のしかたを話されました。

第3部のパネルディスカッションは、小関高志さん(架け橋グループ担当)の司会で、松野芳夫さん、矢野恒子さん、川口祐子さんの3名に、今のパートナーとの交流、記憶に残るIメイト学

生や、過去にうまくいかなかった例などを話していただきました。

第4部はグループディスカッション。参加者が5グループに分かれて、交流事例や心配事、今後の交流のあり方など活発な話し合いが持たれました。この交歓会を今後の交流に役立てていただければ幸いです。



＜Iメイト交流の流れ＞

(副理事長 奥山 寿子)

パネリストとしての感想



入会後5人のIメイトとスタートしましたが、体調不良で思うような交流ができず申し訳ない気持ちが大きく不安でしたが、「交歓会」当日は出席の皆さんと楽しく話ことができました。

まずは皆さんが丁寧な交流をされているのに感心して自らを反省しました。メール以外の手段を駆使されていることも目から鱗でした。私はメールのみで少し寝かせてから返事をするという時差のある交流をしていましたが、この交歓会の後、Iメイトたちにメール以外の可能な手段を聞いてみると、いつも文学的な文章を書いてくれる子は話すのは苦手なのでZoomよりLINEの方がいいと正直に伝えてくれたり、メールが短い子はZoomがいいとはっきり教えてくれたり様々でした。5人のうち未だ1人しかZoomでのやり取りはしていませんが、会話が苦手という子も含めて少しずつ進めていけたらと思います。

(正会員 矢野 恒子)

新たな交流の方向性

パネルディスカッションでは、「Zoom 無料プランで気軽に話すことで、日本語会話の間合いを練習できる」と「Eメールは少し時間を置いて返信の方が良い」という意見が出ました。両者のバランスを取ることで、リラックスした雰囲気を保ちつつ表現の深みも学べ、会話と文字でのコミュニケーションが可能になると感じました。

続くグループセッションでは、Iメイトのマッチング方法が議論されました。現在の希望者リストに基づく方法では意図しない相手とのマッチングが発生し、学生の交流意欲が低下することが指摘されたため、学生に会員の特徴を事前に提供し、希望する相手を選んでもらう方法が提案されました。これにより効果的な交流が期待される一方、コーディネーターの負担増も懸念されました。

活発な議論があり充実した2時間となりました。

(監事 竹宮 聡)



21年を振り返って

アジ風を立ち上げた2003年頃、私は今後の生き方に何か目標になるものを探し求めているように思います。セカンドキャリアとして日本語教師になり、外国人と交わる中で、自文化の相対化がすすみ、この体験を一般の日本人にもしてもらいたいと願いました。その頃勤めていた奨学財団で知り合った、清華大学の中国人日本語教員に計画を話し協力を求め、学生と日本人会員のメール交流(Iメイト交流)を思いついた次第です。日本語でコミュニケーションができる、というのが最大のメリッ

トでした。創立当時は日本語支援という形でしたが、決して日本の国威発揚の意図はなく、その理念は「多文化共生」です。

このたび理事を退任しましたが、今後も側面から応援を続けるつもりです。会員の皆さんのご協力のもと、「アジアの新しい風」を、より広く、強く吹かせましょう。

(名誉顧問 上 高子)



〈総会で感想を語る筆者〉

アジ風奨学生レポート

2024年度の奨学生「第七回生」が決まり、年次総会で承認されました。貿易大学卒業のレー・ゴック・トウイさんです。今春、早稲田大学大学院アジア太平洋研究科(国際関係)に進学。「日本企業の職場ジェンダーギャップが与える日本定住志向の外国人への影響」を研究テーマにしているとのこと。元Iメイト学生(OBOG)にもアジ風奨学金の応募資格ができて初めての採用者です。会員の皆さんの応援をお願いいたします。

(元奨学金担当・現名誉顧問 上 高子)

次号から奥山寿子副理事長へ担当が変わります)

Iメイト学生としてアジ風に参加したのは10年前のことです。貿易大学を卒業後、日本に来て製造会社に就職しました。来日以来、アジ風の正会員としてアジ風のさまざまな活動に参加してきました。貿易大学でのイベントに加え、2016年にはタイのタマサート大学を訪問し、日本での交流会にも多く参加しました。日本語がほとんどできなかった大学2年生の頃から、



元Iメイトの岩切祐樹さんや会員の皆さんに支えられ、今では言語の壁をほとんど感じることなく、日本語で勉強や仕事ができることに自信を持っています。アジ風は日本語のサポートだけでなく、日本での生活に関する問題にも親身に対応してくれ、本当に感謝しています。

今年4月、私は仕事を辞めて早稲田大学大学院アジア太平洋研究科の修士課程に進学しました。幸運にも、奨学金をいただくことができ、これは私にとって非常に貴重な経済的支援となり、大変嬉しく思っています。この奨学金のおかげで、学業や研究により多くの時間を費やすことができ、勉強、休息、リラクゼーションのバランスを保つことが可能になりました。早稲田大学を卒業した後は、ベトナムに戻り、NGOで働きながら、ベトナムと日本の架け橋となり続けたいと考えています。

(学生会員 レー・ゴック・トウイ)



東京工業大学―清華大学交換留学プログラム 20周年記念セレモニー

8月22日に同セレモニーが東京工業大学蔵前会館にて開催されました。両大学関係者、両国の修了生が多数参加し盛会となりました。架け橋の学生Iメイト（2022マッチング組）は現役留學生として紹介されましたが、なんと全員が日本語でスピーチをしてくれました！架け橋メンバーは、ほとんどがIメイトになってから日本語学習を始めた学生たちです。交流や会話のときは、まだ英語というメンバーが多いのですが、この日は日本での研究成果や思い出など全員がすべて日本語でスピーチしてくれ、驚きと感動を覚えました。

〈後列左から
2人目が金さん右端が筆者〉

これもIメイトの皆様のご協力のおかげと感謝いたします。今後帰国した後も日中の架け橋として活躍してくれることを期待したいと思います。

（交流コーディネーター 小関 高志）

異国間文化交流も深めるプログラム

東京工業大学及び清華大学合同プログラム20周年セレモニーに参加でき、とても光栄に思っています。同級生だけでなく、卒業生の皆様とも交流できて素敵な経験でした。特に先輩方の経歴を聞き、自分も彼らのような立派で、日中交流に役立てる人になりたいと決めました。世界形勢がどんどん変わっていく今、国際間交流を通じて、学術的發展を促進すると同時に、異国間文化交流も深めるプログラムや活動はとても重要だと思います。自分は今後もこのプログラムを支持し、日中だけでなく、もっと多くの国の間の交流、そして人々の間の理解を促進するよう頑張りたいと思います！

（清華大学大学院 金 佑真 Iメイトは西尾のぞみさん）

回を重ねるたびに楽しくなる「おしゃべりの場」

2021年秋にタマサート大学からスタートした「おしゃべりの場」は、パジャジャラン大学、貿易大学と順次開始されました。学生たちが夏休みの予定を語った、6月23日のタマサート大学では、旅行もしたい・ゲームを集中的にやりたい・海外に行きたい等々長い夏休みを思い、学生たちの目が輝いていました。8月17日にも開催しました。6月30日の貿易大学では、冒頭のクイズを全員で楽しめます。この時はIメイト会員が言葉を当てる

架け橋グループ 2022年マッチング組歓送交流会

昨年9月に来日した2022マッチング組との帰国前歓送交流会を8月10日に開催し、東京豊洲市場と浜離宮を訪問しました。水産市場見学後「千客万来」屋上で足湯と東京湾の景観を楽しんでから浜離宮へ。西澤さんの奥様にもご参加いただき、学生に英語でご案内していただきました。散策後、離宮内の芳梅亭で亀戸老舗の下町弁当を楽しんでから交流会です。

1年間の留学中の思い出やイベントを紹介していただきました。短期間によくそれだけと感心するくらい皆さん旅行に出かけたようです。元気で帰国して今後も活躍されることをお祈りいたします。



〈浜離宮にて〉

（交流コーディネーター 小関 高志）

国境を越えた友情と、国際交流の力



8月10日は忘れられない一日となりました。アジア風のみなさんと共に訪れた浜離宮は、自然の美しさと歴史の重みが調和し、心に深い感動を与えてくれました。歓送会では、学生たちがそれぞれの1年間の留学経験を語り、その発表には情熱や努力、異文化での喜びと苦勞が凝縮されていました。特に、異国での困難を乗り越えた経験や、日本と自国の文化を互いに尊重し合う姿勢に、大きな感銘を受けました。1人ひとりの言葉から、国境を越えた友情が芽生えていることを感じ、国際交流の力を強く実感しました。

皆の成長を見て、自分もさらに挑戦し続けたいという思いが芽生えました。

（清華大学大学院 高 宇萱 Iメイトは藤原ひさ子さん）

クロスワードゲームで、学生はいつもクイズやゲームを工夫して会員を喜ばせてくれます。7月13日のパジャジャラン大学では、将来の仕事についての話題。日本への企業研修に応募して結果を待っている人・既に留学中で体験を披露する人もいました。

直近の4回で学生参加者が31名、日本人会員39名、5～6人の小グループで気楽に自分のこと、自国の紹介、好きな食べ物などの話題で、学生からの発言も増えました。日本人も学生気分になって夢中に話し、90分の時はいつもあっという間に流れていきます。

（理事 古海 正子）

会員紹介

乃万克也さん

乃万（のま）さんは広島生まれで、高校まで広島で育ちました。子供の頃は川で泳いだり、野球をしたり元気な男の子でした。中高一貫の学校ではESSとサッカーに夢中になりました。そこはミッションスクールなのでいろいろな国からの神父さん達が居られ、自然に海外に目が向くようになりました。

大学ではかつて国連機関に居られた先生の影響で発展途上国での仕事に興味を持つようになりました。3年生になると自分の足で海外を見たくなり、アルバイトで貯めた資金を使ってロサンゼルスに1人で渡り、3か月のホームステイを体験し、新しい視野を得ることができました。「国を出て見よう、何でも見てやろう、行けば何とかなる」という信念はその時に芽生えたのです。

就職してからも、海外事業に携わることが多くなりました。タイと中国で新会社を立ち上げたことが特に深い思い出だそうです。海外駐在はしていませんが、中国には年間90日以上も滞在

したり、ベトナムや、シンガポールや香港などアジアの国々に出張する機会が多かったとの事です。

アジア風に興味を抱いたのも、そのような経歴と結びついたからでしょう。これまでに3人のIメイトと交流しましたが、そのうちの1人の清華大学生はアメリカの大学院に進学し、卒業後アメリカで就職しています。その後アジア風の活動とは暫く間を置いたのですが、友人達にアジア風のことを話す度に、自分が活動を休止していたのでは変だと思って、急にアジア風のその後の活動状況が気になり、今年再入会されました。

以前清華大学を訪問し日本語学科の学生達に日本の就職状況をお話しされましたが、今中国は就職難で、日本への留学生も本国に帰るより日本に残って就職する道を探す人が多くなっているようで、これからもそのような学生に少しでも力を貸したいものですと笑顔で締めくくられました。インタビューー：園田 成和





清華大学では、夏休みも終わり、いよいよ9月から新学期が始まりました。北京市にある広大なキャンパスには大勢の学生が戻り、活気にみなぎっていることでしょう。今回は、2024年5月25日の清華大学訪問で初対面を果たされた浅山久美子さんと王思沅さん、また、来日時に一緒に鎌倉などを散策された川口祐子さんと李祉玥さんの交流を紹介します。

(交流コーディネーター 三木 京子)

浅山 久美子さんと王 思沅さんの交流

王さん→浅山さん

2023年11月11日

初めまして！日本語は大学に入って勉強し始めたので、今はまだ上手ではありません。文法や単語は覚えにくいですが、一生懸命にやっています。浅山さんも外国語を勉強した経験があったら言葉の勉強についてアドバイスいただけないでしょうか。



浅山さん→王さん

11月23日

たった1年間しか日本語を習っていないのに、ほとんど直すところがないです。このまま、どんどん、たくさん書き続けてください。

私は20才の時、ドイツへ行くことになり、いきなり現地でドイツ語を学びました。その時、自分で今日はこの単語か文型を使ってみようと思つてそれを1つずつ増やしていきました。特に間違っ使用、直してもらった単語は、その後も忘れません。

王さん→浅山さん

12月4日

この間、貧乏で就学できない女の子を助成する「春蕾」というボランティア活動に参加して年賀状を作りました。今の日本も多くの方が紙の年賀状を作成し、先生の知合いは毎年300枚くらいの年賀状を手書いているそうです。Eメールが普及している時代、紙の年賀状は本当に日本に流行していますか。

浅山さん→王さん

12月15日

学生や若い世代の人たちは、LINEなどで年賀状を交換しているようです。60歳以上は年賀状(葉書)を送る人が多く、50枚～100枚くらいかな。私の1番長く交換しているのは小学校の同じクラスの友達で65年になります。

王さん→浅山さん

2024年3月8日

中国では若い母親が仕事と育児を両立するために、祖母は子供と住んで家事や育児を手伝い、祖母または祖父は子供の家、自分の家に行ったり来たりします。このような四代同堂大家庭を対象に、その内の小家庭の間のインターアクションを研究するつもりです。

王さん→浅山さん

4月17日

アジ風の皆さんの5月清華大学訪問について、先生と交流会の場所や形式などについて相談しました。浅山さんと向き合って話すのを、ずっと前から楽しみにしています。5月30日は私の二十歳の誕生日で、浅山さんの訪問は私にとって最高のプレゼントです。

浅山さん→王さん

5月8日

お会いできたら、とても嬉しいです、思沅さんにお会いするのが第一の目的ですから。

川口 祐子さんと李 祉玥さんの交流

李さん→川口さん

2023年12月11日

この学期、3年生に進級しました。日本の近代文学に興味があり、陳先生のゼミに参加しました。ゼミでは優秀な大学院生や博士課程の先輩方と知り合い、毎週一緒に学びの成果を共有し、先生が割り当てた読書資料と一緒に焦りながら読み、本当に楽しい時間を過ごしています。初めて日本語で発表したときは本当に緊張しましたが、順調に終わってからはとても達成感がありました。

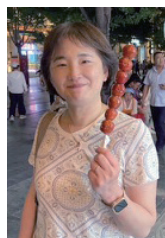


今は、明治初期の日本近代文学の成立から学び始め、有名な文学作品を読みながら、当時の文学界の状況や文芸論争についても詳しく理解しています。これらの文学作品を読むうちに、文学はたぶん人生そのものだと感じるようになりました。他人の文学作品を読むことは、自分が経験できない人生を経験することかもしれません。この感覚が本当に好きです。

川口さんが最も好きな作家は誰ですか？私の最も好きな中国の作家は余華で、日本の作家は有島武郎です。

川口さん→李さん

2024年2月12日



李さんは日本文学をたくさん読んでいてびっくりしています。教科書に出て私が読んだ作家の作品を読んでいるのですごいと思います。私の好きな作家は泉鏡花と三島由紀夫です。

中国の文学と言えば、国語の漢文で習う唐代宋代の詩や論語が思い浮かびます。最近SF作品が紹介され「三体」はかなり話題になりました。日本では全集も出て、研究者も多い魯迅の作品は何作か読んでいます。大学生の時は中国のこともあまり詳しくなく、彼の文章の奥に書かれている意味や批判を理解するのが難しかったです(今も難しいかな)。ノーベル文学賞の莫言、王小波も読んだことがあります。間に訳者が入っているのが原文で読めるようになります。李さんはこの方々の作品を読んだことがありますか？感想など聞いてみたいです。

今後の行事予定

*詳細はHPを参照

10月23日～27日

パジャジャラン大学訪問

11月3日

架け橋グループ歓迎交流会

於:蔵前会館(学園祭を共に楽しむ計画)

11月9日

西日本・九州地区Iメイト交流会

於:熊本(リアル)

2025年2月23日

新春交流会

・・・編集後記・・・

今号から編集担当を原谷洋美さんに、渉外担当を島村美智さんにお願いすることになりました。もう数年前になりますが、アジ風で何かお手伝いすることがありますかと申し出たところ、アジ風新聞の編集委員を仰せつかりました。今まで編集や校正など全く経験がなかったのですが、当時の編集長だった古海正子さんやその後の奥山寿子さんに手取り足取り教えて頂きました。

その後、編集長の重任を仰せつかりましたが、その時は短歌を嗜まれている原谷さんには独特の日本語に対する感覚を、島村さんには会員の方々や学生との交流を通じてアジ風新聞に掲載すべき記事の提案を受けました。また1年間という短い時間でしたが、志村真帆子さんには学生と同世代の若い感覚について教えて頂きました。

今後も一編集委員として、アジ風新聞の更なる発展に尽くしていきたいと存じます。

(伊藤 莞爾)